

# 諏訪の景気動向

平成21年 5月

(平成21年4月末 D・I調査)

平成21年5月18日  
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成 21 年 4 月末）

「平成 21 年 4 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 193 社のご協力を得て行った 4 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の業況判断 D I は  $\Delta 47.2$  と前回調査時（平成 21 年 1 月末、以下同）の  $\Delta 82.1$  から 34.9 ポイントの大幅な改善となった。ただし、業況が「好転」したとする企業が 8.3%あるものの、「横這」企業が 36.3%、「悪化」企業が 55.4%であり、幾分下げ止まり感はあるものの回復傾向とはいえない底這いの状況となっている。

製造業の「3ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「悪化」とする企業が 56.3%と前回調査時の 89.1%から減少し、「横這」とする企業が前回調査時の 10.2%から 35.2%へと増加したことから、同 D I は前回調査時の  $\Delta 88.4$  から 40.5 ポイント改善し  $\Delta 47.9$  となった。受注状況 D I は「3ヶ月前比」では「増加」企業が 12.7%、「不変」企業が 28.2%で、同 D I は  $\Delta 46.5$  と前回調査時の  $\Delta 89.8$  から 43.3 ポイントの改善となった。また、「3ヶ月後」の受注予想では「悪化」とする企業が 27.5%あるものの「増加」とする企業が 21.8%あることから、同 D I は  $\Delta 5.6$  と前回調査時の  $\Delta 70.1$  から 64.5 ポイントの大幅な改善となった。規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「1人～29人企業」 $\Delta 54.3$ 、「30人～99人企業」 $\Delta 39.1$ 、「100人以上企業」 $\Delta 46.2$  と全ての規模で前回調査時より改善している。なかでも、「30人～99人企業」は 17.4%の企業で「好転」したとして前回調査時の  $\Delta 93.8$  から 54.7 ポイント改善した。「3ヶ月後」の受注予想は、「悪化」企業が 27.5%、「増加」企業が 21.8%で同 D I は  $\Delta 5.6$  と前回調査時の  $\Delta 70.1$  から 64.5 ポイントの大幅な改善となった。そのうち、「100人以上企業」では 38.5%の企業が「増加」を見込み、「減少」を予想する企業が 76.7%あった前回調査時の同 D I  $\Delta 70.0$  から大幅に改善し同 D I は 23.1 とプラスに転じている。

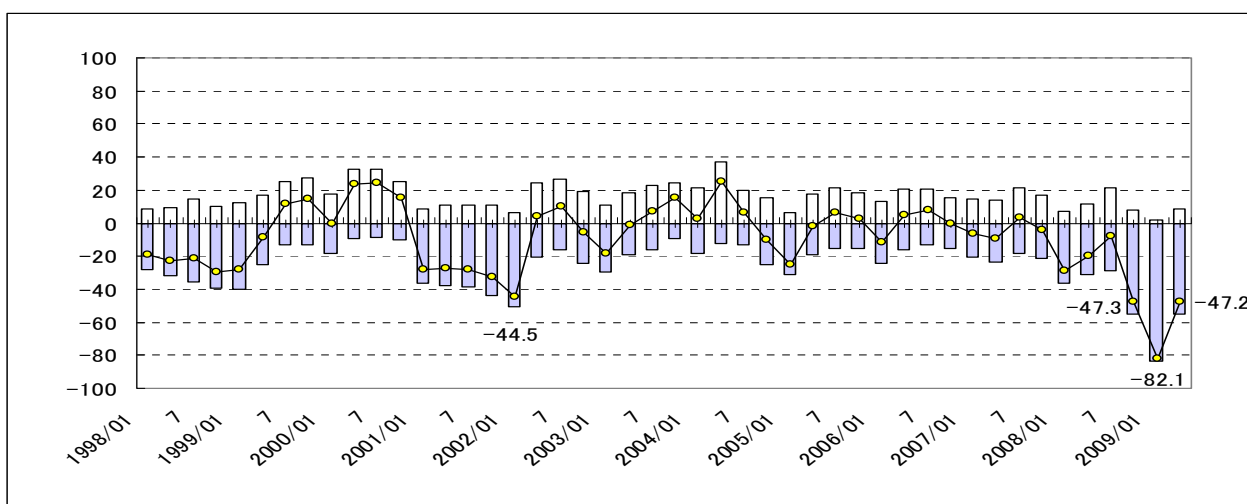
昨秋以来の世界経済の急減速から、諏訪地域の主力の製造業でも秋口より急激な速度で受注が大幅に減少しており足元の景況は厳しいものの、今回調査の各項目では「3ヶ月前」と比べ「横這」と回答する企業の割合が増加しており、また「3ヶ月後」の受注予想 D I では「100人以上企業」の 38.5%で「増加」を見込むなど幾分明るい材料も見えてきている。

商業は、「3ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「好転」とする企業が 8.3%、「悪化」とする企業が 66.7%で同 D I は  $\Delta 58.3$  と前回調査時の  $\Delta 83.3$  から 25.0 ポイント改善した。ただし、「客単価」、「来店客数」とともに「好転」としたとする店舗はなく、客単価 D I は  $\Delta 83.3$ 、来店客数 D I は  $\Delta 58.3$  となっている。また、「前年同期比」の客単価 D I は  $\Delta 91.7$  と客単価の低下が課題となっている。食料品は、来店客数は前年並みを維持するも、店舗間の価格競争が激しく P B 商品をはじめとして商品単価が下落しており売上高は前年を割り込んだ店舗が多く、衣料品は市町村のプレミアム商品券の使用により売上が増加したとする店舗があるものの総体の売れ行きは引き続き低調である。また、諏訪・岡谷を合わせた 4 月の車庫証明件数（軽自動車除く）は 868 台で前年同月比  $\Delta 215$  台（ $\Delta 19.9\%$ ）の減少と、エコカー減税の効果はまだ出ておらず、大型家電店では 5 月に開始されるエコポイントを見込んで対象商品の買い控えがきかれる。

観光・サービス業は、「前年同期比」の業況判断は、「悪化」とするホテル旅館が75.0%を占めるものの「好転」とするところが8.3%あることから、業況判断D Iは△66.7と前回調査時の△70.0から幾分改善した。また、「前年同期比」の宿泊客数は79.2%のホテル旅館が「悪化」として、宿泊客数D Iは△75.0と落ち込んでいる。諏訪大社（上社・下社）の4月の参拝者数は37千人と一般のバスツアーや修学旅行等の団体客の減少から前年同月比△18千人の大幅な減少となった。また、「ETC 休日特別割引」の効果により入込み客が増加した観光施設がきかれるものの、4月末時点では宿泊客数の増加に結びついておらず、今後の夏の観光シーズンに向けて営業を強化しているところが多い。

建設業は、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」とする企業はなく、「横這」とする企業が66.7%を占めており、同D Iは△33.3と前回調査時の△37.5から小幅な改善となったものの、企業の設備投資意欲や個人の住宅着工のマインドは弱く、今後の受注動向や収益確保を危惧する声がかかる。建築工事は、諏訪地方の平成21年3月の新設住宅着工件数は123戸で、「貸家」が昨年同月の8戸から52戸へ増加したことを主因に総体でも昨年同月の71戸から+52戸（+73.2%）増加した。また、平成20年4月～平成21年3月（平成20年度）の累計着工戸数は1,482戸で前年同期の1,521戸に比べ△39戸（△2.6%）減少し、過去10年で最低の戸数となった。土木工事は、県関係の平成21年4月の公共工事（地元業者受注分）は11件148百万円と県の緊急経済対策による平成21年度予算工事の前倒し発注により前年同月比+9件+111百万円の大幅な増加となった。

雇用状況は、平成21年3月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を△0.78ポイント下回り0.51倍と対前年比で18ヶ月連続して低下し、長野県の同倍率（0.47倍）とともに全国平均の0.52倍を下回った。なお、諏訪管内は統計が残る平成14年4月、長野県全体では統計が残る昭和38年1月以来の最低数値となった。また、諏訪地域の3月の新規求人（全数）は1,028人で前年同月比△309人（△23.1%）の減少、新規求職者数は1,557人で前年同月比+673人（+76.1%）の増加となっている。新規求人数は、地域の主力産業である製造業全体で53名と対前年同月比△283人（△84.2%）と大幅な減少となっている。また、1件10人以上の人員整理は16件392人、事業主都合による雇用保険資格喪失者は780人と前年同月より694人増加、前月より231人の増加となった。



## 業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（193社）の「3ヶ月前比」の業況判断は、「好転」企業が8.3%、「横這」企業が36.3%、「悪化」企業が55.4%と、前回調査時より「横這」とする企業割合が増加したことから業況判断D Iは△47.2と前回調査時の同D I △82.1から34.9ポイントの回復となった。

製造業の業況判断D Iは△47.9と「横這」とする企業割合が35.2%となったことから、同D Iは前回調査時の△88.4から40.5ポイント改善し△47.9と幾分下げ止まり感がみられる。また、製造業主要5業種の業況判断D Iは、電気機械が同D I △64.3とマイナス幅が最も大きく、精密機械は同D I △25.0とマイナス幅は最も小さくなっている。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iは△45.1と観光業で季節的要因等からD I値が回復したことにより前回調査時の△63.3から18.2ポイント回復しているものの、商業では消費マインドの低迷から不急な商品を中心に買い控えがきかれ、観光も団体客の減少傾向がきかれる。

産業別業況表

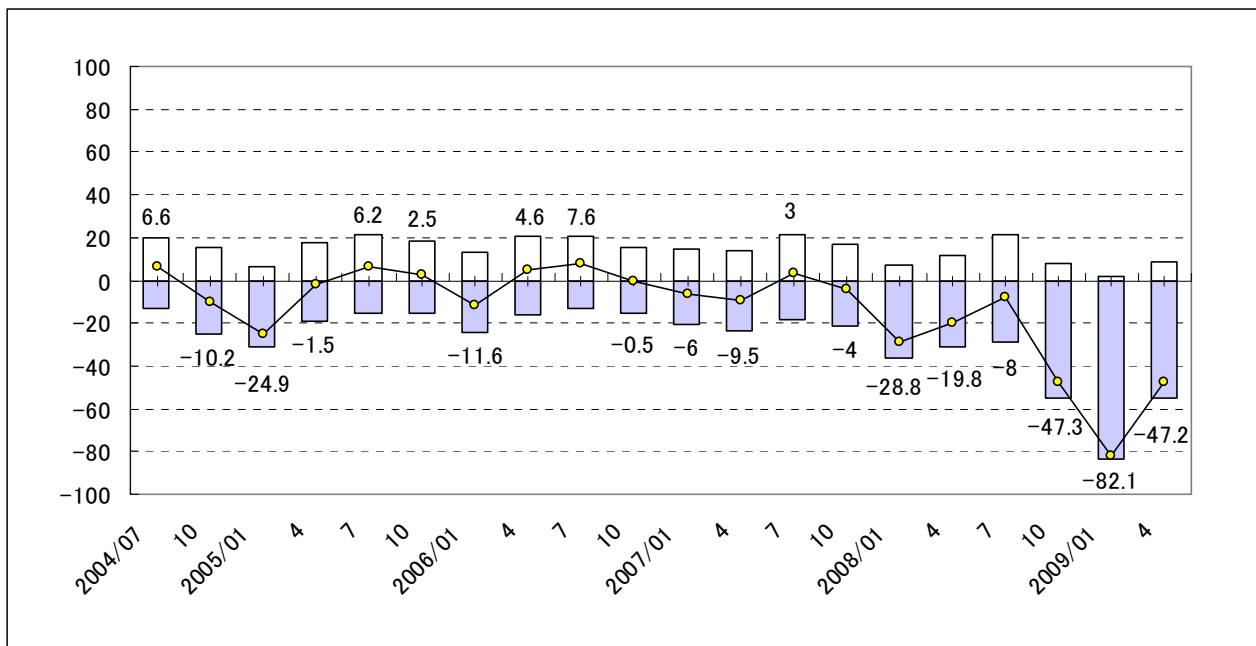
（企業数・%）表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	193	8.3	36.3	55.4	-47.2	193	3.6	13	83.4	-79.8	193	18.7	55.4	25.9	-7.3
製造業	142	8.5	35.2	56.3	-47.9	142	2.1	7	90.8	-88.7	142	18.3	56.3	25.4	-7
非製造業	51	7.8	39.2	52.9	-45.1	51	7.8	29.4	62.7	-54.9	51	19.6	52.9	27.5	-7.8
商業(大型店)	12	8.3	25	66.7	-58.3	12	8.3	16.7	75	-66.7	12	8.3	66.7	25	-16.7
建設業	15	0	66.7	33.3	-33.3	15	6.7	60	33.3	-26.7	15	0	66.7	33.3	-33.3
観光・サービス	24	12.5	29.2	58.3	-45.8	24	8.3	16.7	75	-66.7	24	37.5	37.5	25	12.5

### 自社業況判断D Iの推移

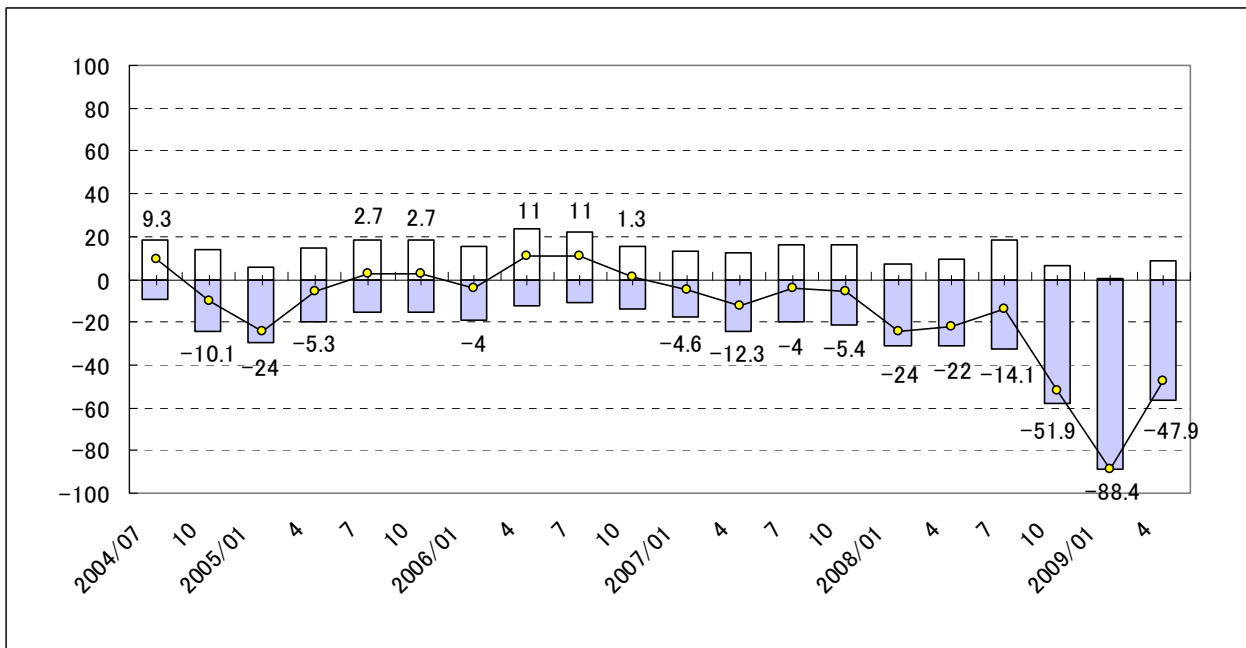
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



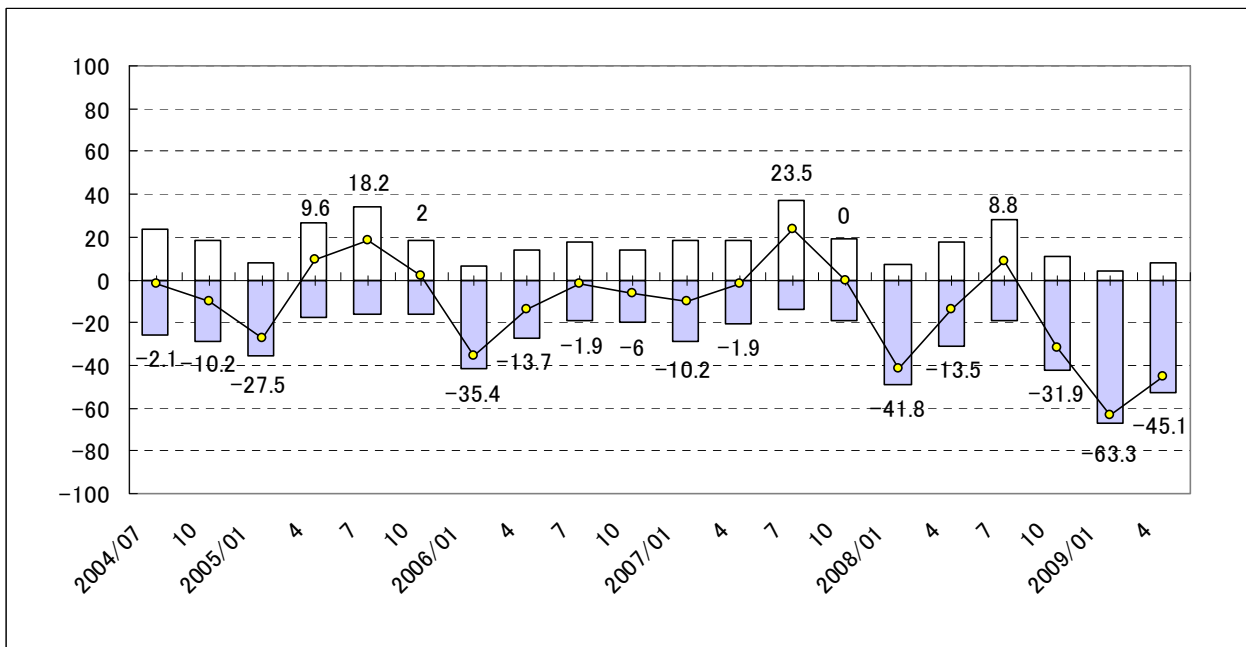
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



## 産業別景気動向

### 1. 製造業

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「悪化」とする企業が56.3%と前回調査時の89.1%から減少し、「横這」とする企業が前回調査時の10.2%から35.2%へと増加したことから、同D Iは前回調査時の△88.4から40.5ポイント改善し△47.9となった。また、「3ヵ月後」の業況予想D Iは「悪化」とする企業割合が前回調査時の74.8%から25.4%に減少し、「好転」を見込む企業が18.3%あることから同D Iも前回調査時の△72.8から65.8ポイント回復し△7.0となった。

「3ヶ月前」と比べ収益性は、「横這」とする企業が37.3%、「悪化」した企業が59.2%で同D Iは△55.6と前回調査時の△81.0からは回復しているものの、依然として厳しい状況で推移している。また、「3ヵ月後」の収益予想D Iは「100人以上企業」で「好転」を見込む企業が15.4%あり同D Iは△3.8とマイナス幅は縮小しているが、「1人～29人企業」ではさらなる「悪化」を予想する企業が44.3%で同D Iは△40.0と厳しい見方が続いている。

受注状況の「3ヵ月後」の予想は、「悪化」とする企業が27.5%あるものの、「増加」とする企業が21.8%あることから同D Iは△5.6と前回調査時の△70.1から64.5ポイントの大幅な改善となった。なかでも、「100人以上企業」では38.5%の企業が「増加」を見込み、「減少」を予想する企業が76.7%あった前回調査時の同D I △70.0から大幅に改善し同D Iは23.1とプラスに転じている。

業種別の、「3ヵ月後」の受注予想D Iは、金属製品で「増加」を見込む企業が40.0%あり、前回調査時は77.8%あった「減少」を見込む企業がなくなったことから同D Iは40.0とプラスに転じ、また、輸送用機械でも「増加」を見込む企業が28.6%で「悪化」とする企業が7.1%であることから、同D Iは21.4とプラスに転じている。

ヒアリング調査では、前年同期比では受注や生産状況は大幅に悪化しているものの、4月の受注状況は2・3月に比べ横這いから若干ではあるものの増加に転じているとする企業もあり、幾分下止まり感が出てきている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
<b>製造業</b>	142	8.5	35.2	56.3	-47.9	142	2.1	7	90.8	-88.7	142	18.3	56.3	25.4	-7	
規模	1～29人	70	4.3	37.1	58.6	-54.3	70	1.4	11.4	87.1	-85.7	70	11.4	57.1	31.4	-20
	30～99人	46	17.4	26.1	56.5	-39.1	46	2.2	4.3	93.5	-91.3	46	23.9	54.3	21.7	2.2
	100人～	26	3.8	46.2	50	-46.2	26	3.8	0	96.2	-92.3	26	26.9	57.7	15.4	11.5
分類	金属製品製造業	15	20	26.7	53.3	-33.3	15	0	0	100	-100	15	33.3	60	6.7	26.7
	一般機械器具製造業	39	2.6	41	56.4	-53.8	39	0	12.8	87.2	-87.2	39	12.8	59	28.2	-15.4
	電気機械器具製造業	28	3.6	28.6	67.9	-64.3	28	0	0	100	-100	28	14.3	50	35.7	-21.4
	輸送用機械器具製造業	14	0	42.9	57.1	-57.1	14	0	0	100	-100	14	28.6	64.3	7.1	21.4
	精密機械器具製造業	16	12.5	50	37.5	-25	16	0	6.3	93.8	-93.8	16	6.3	81.3	12.5	-6.3

## ①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「前年同期比」の業況判断D Iは、全企業で「悪化」として $\Delta 100.0$ であるものの、「3ヶ月前比」では20.0%の企業が「好転」したとして同D Iは $\Delta 33.3$ と前回調査時の $\Delta 100.0$ より大幅な改善となった。また、「3ヵ月後」の業況予想D Iは「横這」とする企業が60.0%と最も多いものの、33.3%の企業で「好転」を見込むことから同D Iは26.7と前回調査時の $\Delta 72.2$ からプラスに転じ、5業種のなかで最も改善を見込んでいる。

### ●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 53.8$ と前回調査時の $\Delta 89.7$ よりは改善したものの、「前年同期比」の業況判断D Iは $\Delta 87.2$ と依然低水準となっている。また、自動車関連や電気機械関連企業が設備投資を手控えており、「3ヵ月後」の業況予想D Iも「横這」とする企業が59.0%、「悪化」とする企業が28.2%を占め低調な推移を予想している。

### ●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 64.3$ と前回調査時の $\Delta 93.8$ より改善したものの、5業種のなかで最も厳しい数値となっている。また、「3ヵ月後」の業況予想D Iも35.7%の企業で「悪化」を予想しており、同D Iは $\Delta 21.4$ と今後の見通しも5業種のなかで一番厳しい見方をしている。

### ●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヵ月前」と比べた業況判断D Iは、前回調査時に引き続き「好転」とする企業はないものの、「横這」とする企業が42.9%となったことから同D Iは $\Delta 57.1$ と前回調査時の $\Delta 100.0$ から改善した。また、「3ヵ月後」の業況予想D Iでは「横這」とする企業が最も多いものの、ハイブリット車向け等で「好転」を見込む企業が28.6%あることから同D Iは21.4と前回調査時の $\Delta 81.3$ から大幅に改善した。

### ●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「横這」とする企業が50.0%と5業種の中で最も割合が高く、「悪化」した企業は37.5%と5業種の中で最も少ないために、同D Iは $\Delta 25.0$ と5業種の中で最もマイナス幅は小さくなっている。「3ヵ月後」の業況予想D Iでは「横這」とする企業が81.3%、また、「好転」を見込む企業は6.3%と5業種の中で最も少ないなど、下げ止まり感はあるが底這い状況を予想する企業が多い。

## ②小分類、他の製造業

小分類では、プレス加工の「3ヶ月前比」業況判断D Iで「増加」とする企業割合が60.0%となったことから同D Iは40.0とプラスに転じているものの、金属工作機械は同D I  $\Delta 78.6$ と落ち込んだままである。また、自動車関連部品の「3ヵ月後」の業況予想D Iは「横這」とする企業が66.7%と最も多いものの「好転」とする企業も33.3%あり、もう一段の「悪化」を予想する企業はないことから同D Iは33.3とプラスに転じている。

### ③規模別業況

製造業の規模別の「3ヶ月前」と比べて業況判断D Iは、「1人～29人企業」△54.3、「30人～99人企業」△39.1、「100人以上企業」△46.2と全ての規模で前回調査時より改善している。なかでも、「30人～99人企業」は17.4%の企業で「好転」したとして、前回調査時の△93.8から54.7ポイント改善し△39.1となった。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは、「100人以上企業」で「好転」とする企業が26.9%、「30人～99人企業」で「好転」とする企業が23.9%あり、「横這」を予想する企業割合が最も多いものの、同D Iはそれぞれプラスに転じている。

### ④受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の受注状況D Iは「前年同期比」では92.3%の企業が「減少」として、同D Iは△89.4と大幅なマイナスとなっているものの、「3ヶ月前比」では「増加」企業が12.7%、「不変」企業が28.2%あり同D Iは△46.5と、前回調査時の△89.8から43.3ポイントの改善となった。また、「3ヶ月後」の予想では「悪化」とする企業が27.5%あるものの、「増加」とする企業が21.8%あることから同D Iは△5.6と前回調査時の△70.1から64.5ポイントの大幅な改善となった。

規模別の受注状況D Iは、全ての規模の企業で「3ヶ月前比」の同D Iは大きく改善し、なかでも「30～99人企業」では△34.8と前回調査時の△97.9から63.1ポイント改善した。また、「3ヶ月後」の予想では「30～99人企業」の26.1%が増加を見込み同D I 4.3、「100人以上企業」では38.5%の企業が「増加」を見込み同D Iは23.1とプラスに転じた。

業種別では、主要5業種の「3ヶ月前比」受注状況D Iは金属製品の33.3%、精密機械の18.8%で「増加」したことから同D Iのマイナス幅も縮小している。また、「3ヶ月後」の受注予想D Iは、金属製品で「増加」を見込む企業が40.0%あり、前回調査時は77.8%あった「減少」を見込む企業がなくなったことから同D Iは40.0とプラスに転じた。また、輸送用機械でも「増加」を見込む企業が28.6%で「悪化」とする企業が7.1%であることから、同D Iは21.4とプラスに転じている。

業種別・規模別受注状況表

表-3

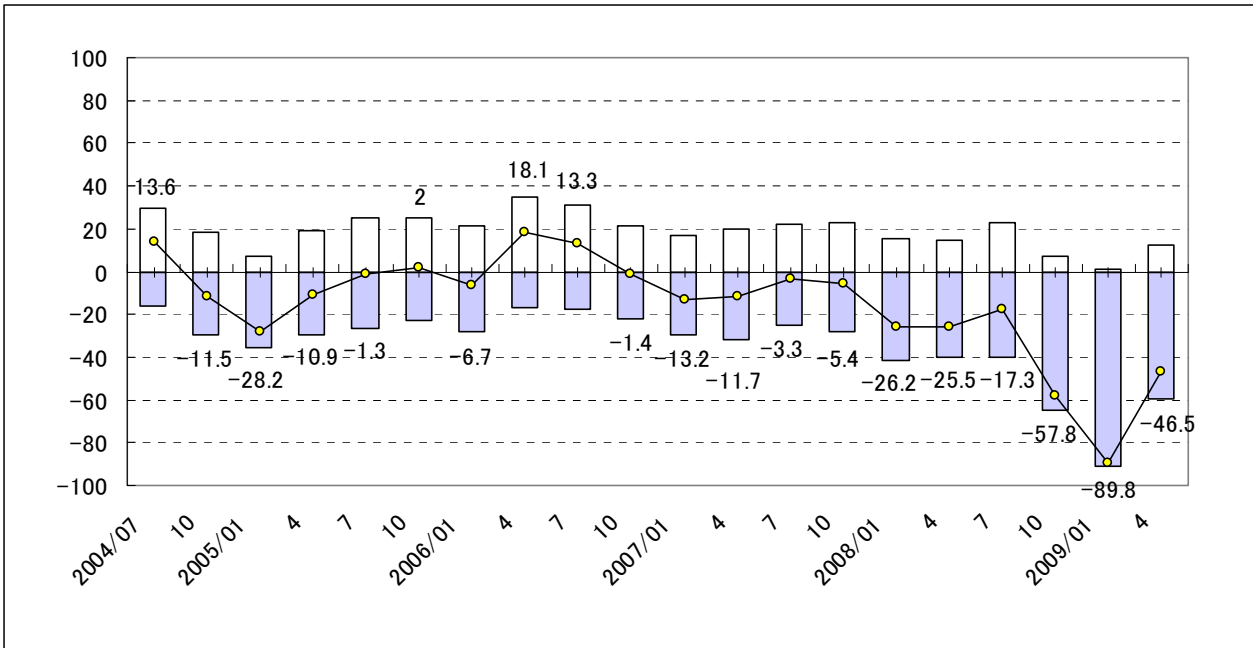
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	142	12.7	28.2	59.2	-46.5	142	2.8	4.9	92.3	-89.4	142	21.8	50.7	27.5	-5.6	
規模	1～29人	70	8.6	28.6	62.9	-54.3	70	2.9	8.6	88.6	-85.7	70	12.9	51.4	35.7	-22.9
	30～99人	46	21.7	21.7	56.5	-34.8	46	2.2	2.2	95.7	-93.5	46	26.1	52.2	21.7	4.3
	100人～	26	7.7	38.5	53.8	-46.2	26	3.8	0	96.2	-92.3	26	38.5	46.2	15.4	23.1
分類	金属製品製造業	15	33.3	13.3	53.3	-20	15	0	0	100	-100	15	40	60	0	40
	一般機械器具製造業	39	5.1	38.5	56.4	-51.3	39	0	12.8	87.2	-87.2	39	20.5	43.6	35.9	-15.4
	電気機械器具製造業	28	3.6	25	71.4	-67.9	28	0	0	100	-100	28	17.9	50	32.1	-14.3
	輸送用機械器具製造業	14	7.1	28.6	64.3	-57.1	14	0	0	100	-100	14	28.6	64.3	7.1	21.4
	精密機械器具製造業	16	18.8	31.3	50	-31.3	16	0	6.3	93.8	-93.8	16	12.5	75	12.5	0



製造業の受注状況D Iの推移

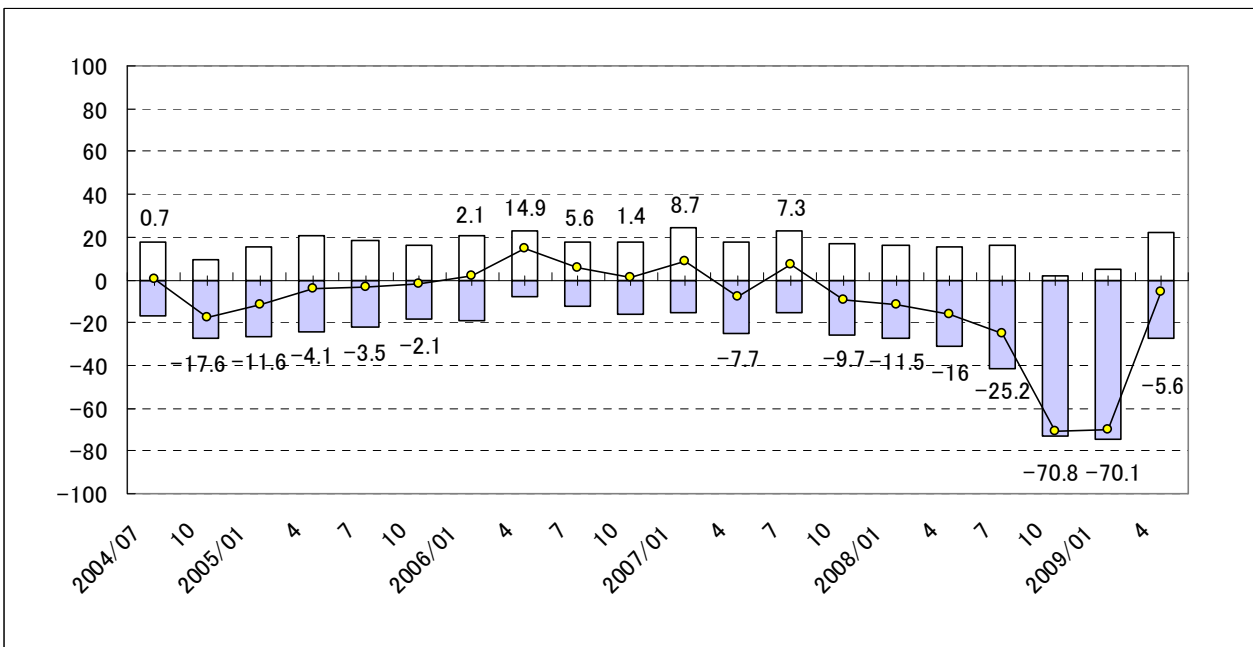
●全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフー4



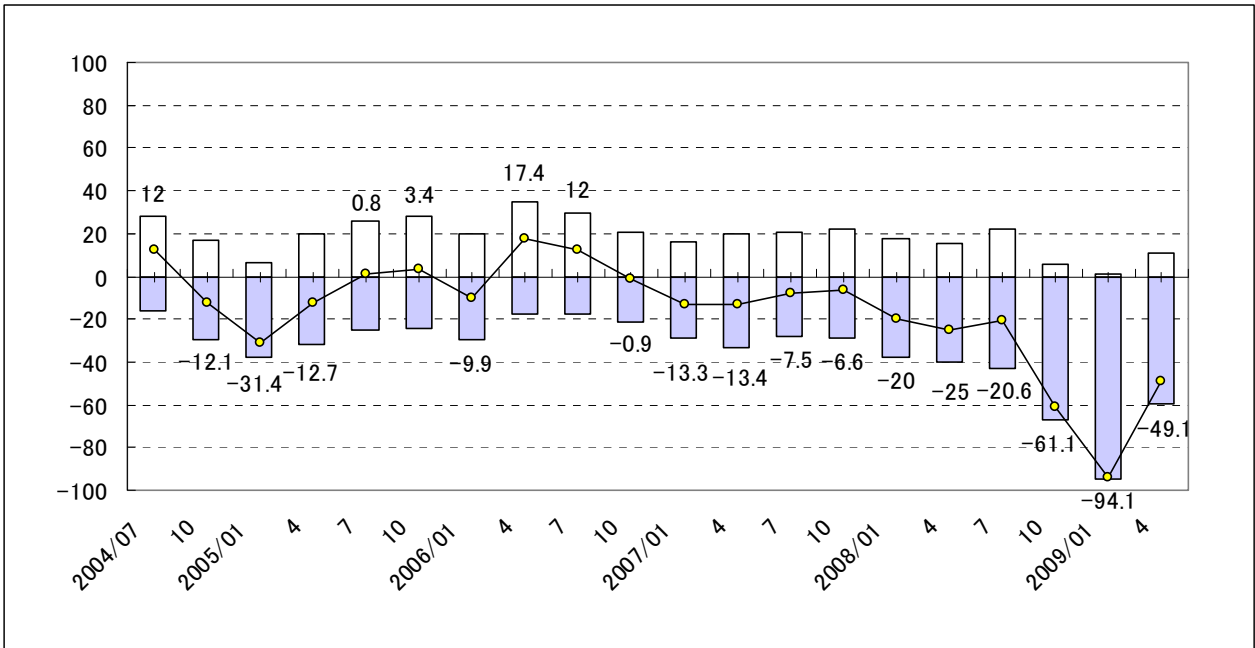
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



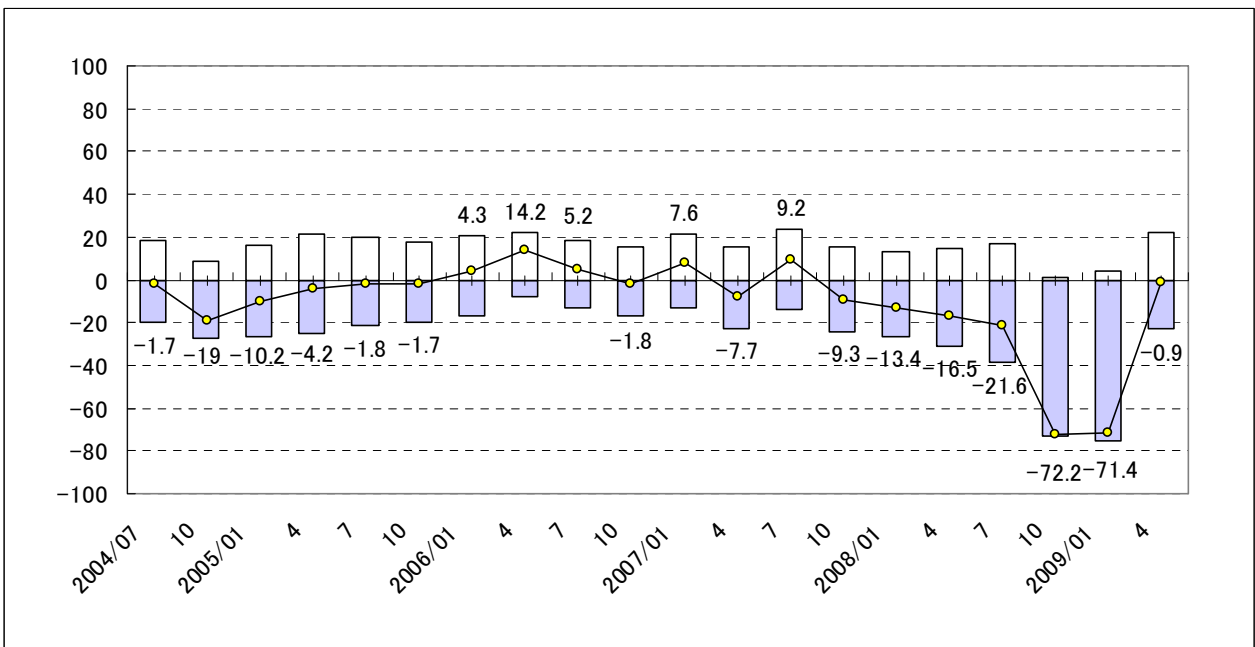
●主要5業種：「3ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ①商業

諏訪地方の4月の天候は、前半は高温となったものの後半は寒気が流れ込むなど寒暖の差が大きい月となった。「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」とする企業が8.3%、「悪化」とする企業が66.7%で同DIは△58.3と前回調査時の△83.3から25.0ポイント改善した。ただし、「客単価」、「来店客数」は「好転」とする店舗はなく、客単価DIは△83.3、来店客数DIは△58.3となっている。また、「前年同期比」の客単価DIは△91.7と客単価の低下が課題となっている。

ヒアリング調査では、衣料品や服飾雑貨などの不急な商品の買い控えに加え、食料品など生活必需品でも購買点数の低下傾向が強まっているとの声がきかれる。

- 食料品 来店客数は前年並みを維持するも、店舗間の価格競争が激しくPB商品をはじめとして商品単価が下落しており売上高は前年を割り込んだ店舗が多い。
- 衣料品 市町村のプレミアム商品券の使用により売上が増加したとする店舗があるものの、総体の売れ行きは引き続き低調である。
- 自動車 諏訪・岡谷を合わせた4月の車庫証明件数（軽自動車除く）は868台で前年同月比△215台（△19.9%）の減少となり、エコカー減税の効果はまだ出ていない。
- ホームセンター 家庭菜園用の野菜苗や園芸用品の売れ行きは好調である。
- 大型家電店 政府のエコポイントが5月より始まるため、対象商品の買い控えがきかれる。

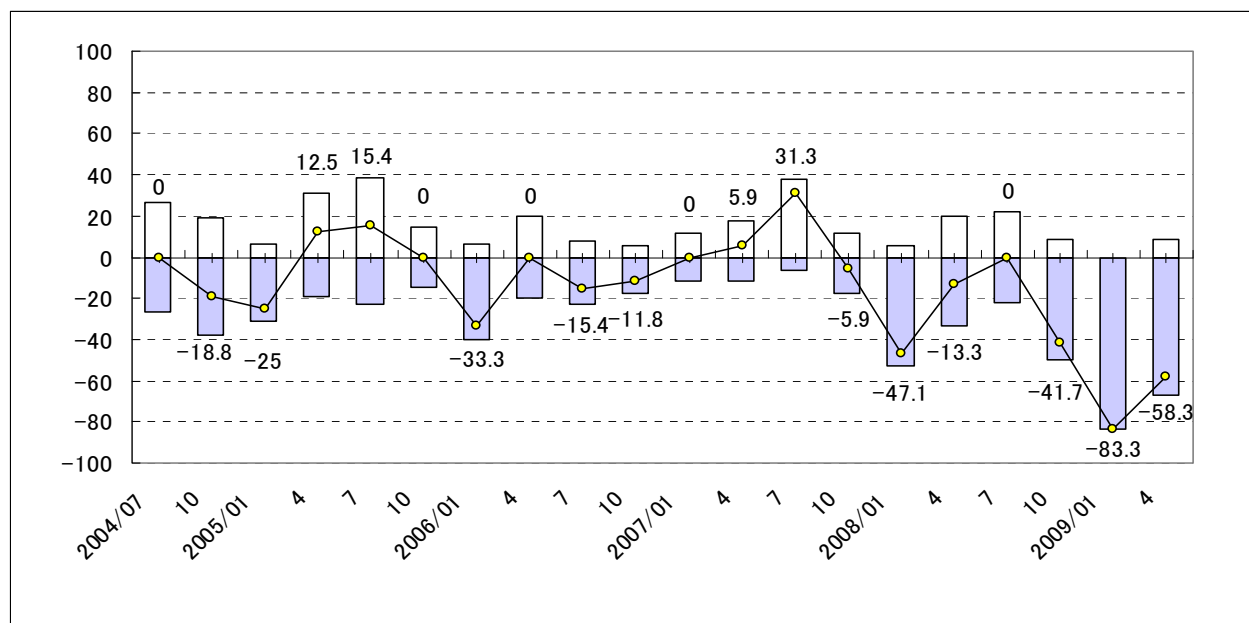
### 業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	12	8.3	25	66.7	-58.3	12	8.3	16.7	75	-66.7	12	8.3	66.7	25	-16.7
客単価	12	0	16.7	83.3	-83.3	12	0	8.3	91.7	-91.7	12	0	33.3	66.7	-66.7
来店客数	12	0	41.7	58.3	-58.3	12	16.7	16.7	66.7	-50	12	25	41.7	33.3	-8.3

### ●商業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



## ②観光・サービス業

「前年同期比」の業況判断は、「悪化」とするホテル旅館が75.0%を占めるものの「好転」とするところが8.3%あることから、業況判断DIは△66.7と前回調査時の△70.0から幾分改善した。また、「前年同期比」の宿泊客数は79.2%のホテル旅館が「悪化」として、宿泊客数DI△75.0と落ち込んでいる。「3ヵ月後」の宿泊客数予想DIでは、夏の観光シーズンに向け45.8%のホテル旅館で「好転」を予想するものの、「悪化」を予想するところが33.3%あり同DIは12.5となっている。

諏訪大社（上社・下社）の4月の参拝者数は37千人と一般のバスツアーや修学旅行等の団体客の減少から前年同月比△18千人の大幅な減少となった。

上諏訪温泉の宿泊客数はホテル旅館により区々であるものの、総体では前年同月比△10%程度減少している模様である。白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面の宿泊客数は、総体では前年並みから△10%程度減少したところが多い。

「ETC 休日特別割引」の効果により入込み客が増加した観光施設がきかれるものの、4月末時点では宿泊客数の増加に結びついておらず、今後の夏の観光シーズンに向けて営業を強化しているところが多い。

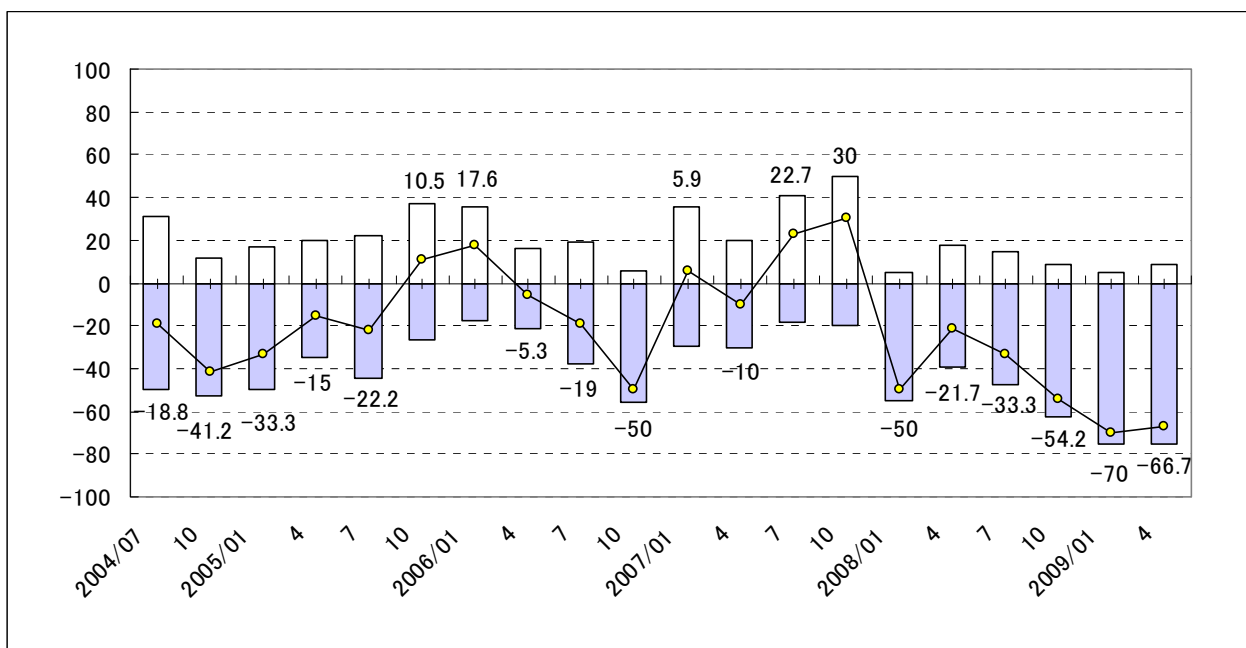
### 業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	24	12.5	29.2	58.3	-45.8	24	8.3	16.7	75	-66.7	24	37.5	37.5	25	12.5
客単価	24	4.2	58.3	37.5	-33.3	24	8.3	41.7	50	-41.7	24	16.7	62.5	20.8	-4.2
宿泊客数	24	12.5	29.2	58.3	-45.8	24	4.2	16.7	79.2	-75	24	45.8	20.8	33.3	12.5

### ●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



### 3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」とする企業はなく、「横這」とする企業が66.7%を占めており、同D Iは△33.3と前回調査時の△37.5から小幅な改善となった。

また、「3ヶ月前」と比べた受注状況が「悪化」したとする企業が60.0%、外注発注量が「減少」したとする企業が66.7%あり、「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは△53.3、外注発注量D Iは△60.0と大きくマイナスとなっている。企業の設備投資意欲や個人の住宅着工のマインドは弱く、今後の受注動向や収益確保を危惧する声がかかる。

#### ①建築工事

諏訪地方の平成21年3月の新設住宅着工件数は123戸で、「貸家」が昨年同月の8戸から52戸へ増加したことを主因に総体でも昨年同月の71戸から+52戸（+73.2%）増加した。また、平成20年4月～平成21年3月（平成20年度）の累計着工戸数は1,482戸で前年同期の1,521戸に比べ△39戸（△2.6%）減少し、過去10年で最低の戸数となった。

#### ②土木工事

県関係の平成21年4月の公共工事（地元業者受注分）は11件148百万円と前年同月比+9件+111百万円の大幅な増加となった。ただし、これは県の緊急経済対策による平成21年度予算工事の前倒し発注によるもので、今後の工事受注の減少を危惧する声がかかる。

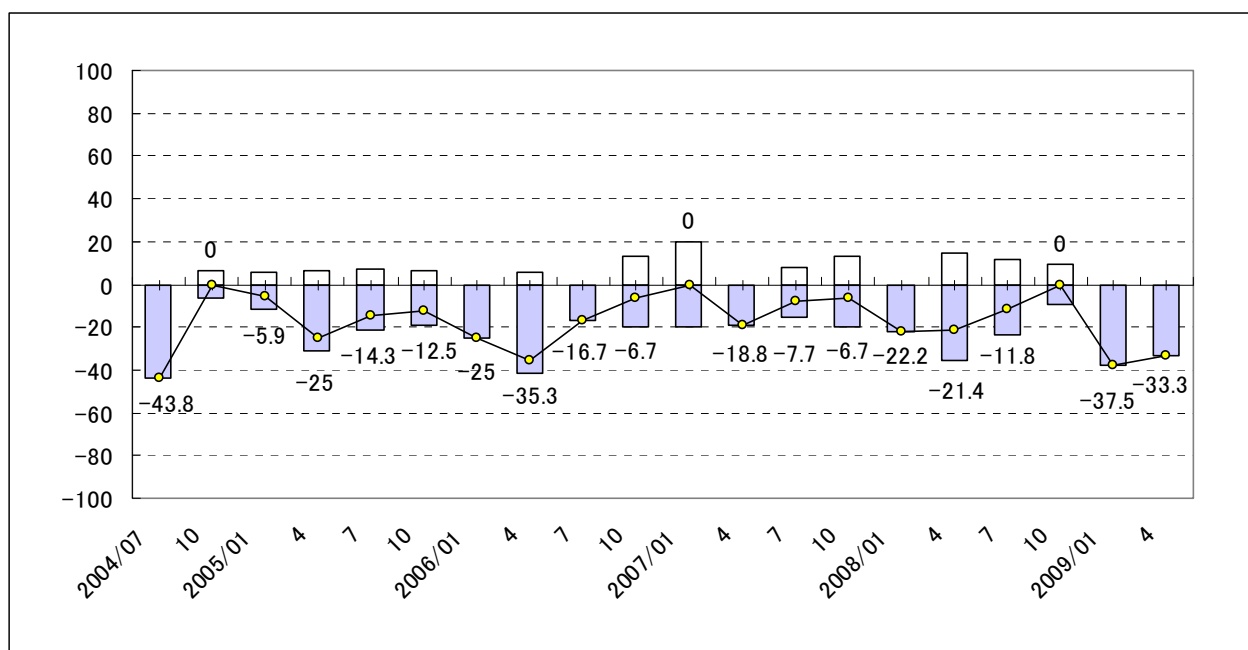
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	15	0	66.7	33.3	-33.3	15	6.7	60	33.3	-26.7	15	0	66.7	33.3	-33.3
受注状況	15	6.7	33.3	60	-53.3	15	13.3	33.3	53.3	-40	15	0	20	80	-80
外注発注量	15	6.7	26.7	66.7	-60	15	13.3	33.3	53.3	-40	15	0	33.3	66.7	-66.7

●建設業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



#### 4. 収益性状況

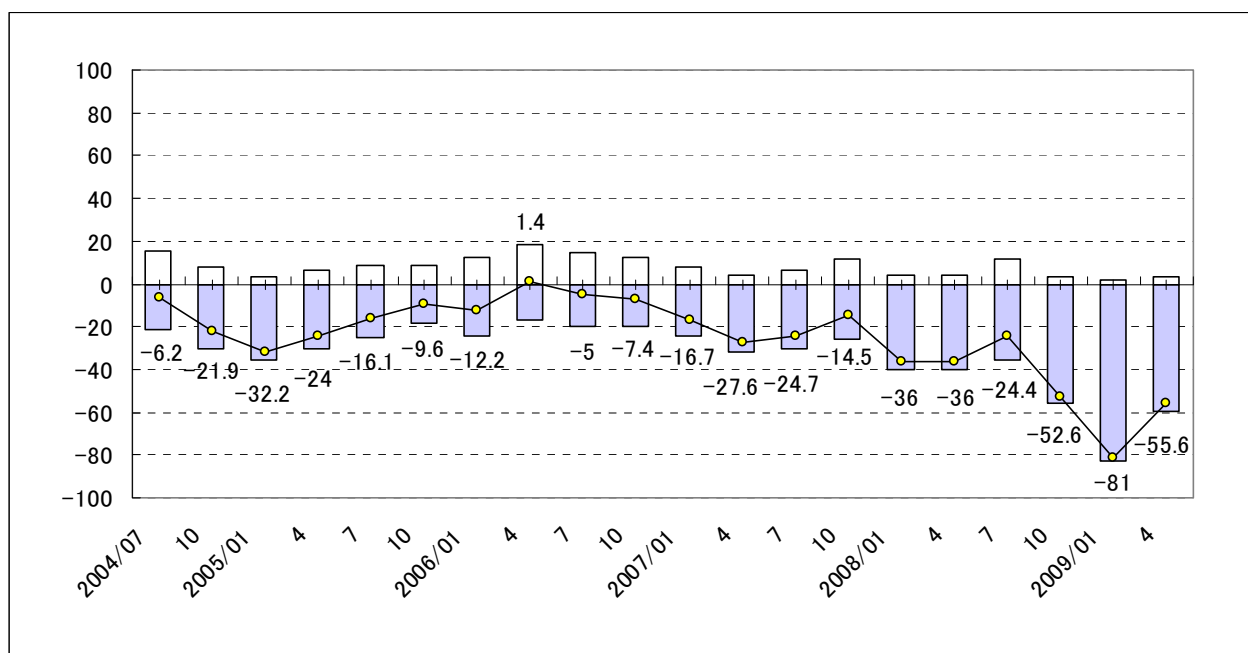
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転企業」3.6%、「横這企業」39.9%、「悪化企業」56.5%で同D Iは△52.8と前回調査時の△76.5から23.7ポイント好転した。

製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「横這」とする企業が37.3%、「悪化」した企業が59.2%で同D Iは△55.6と前回調査時の△81.0からは回復しているものの厳しい状況で推移している。なお、「前年同期」と比べ収益性が「悪化」した企業は85.2%で同D Iは△83.1となっている。

非製造業の「3ヶ月前比」の収益性D Iは、前回調査時の△63.3より18.2ポイント改善し△45.1となったものの、商業で50%、建設業で60%の企業が「横這」としており改善には至っていない。

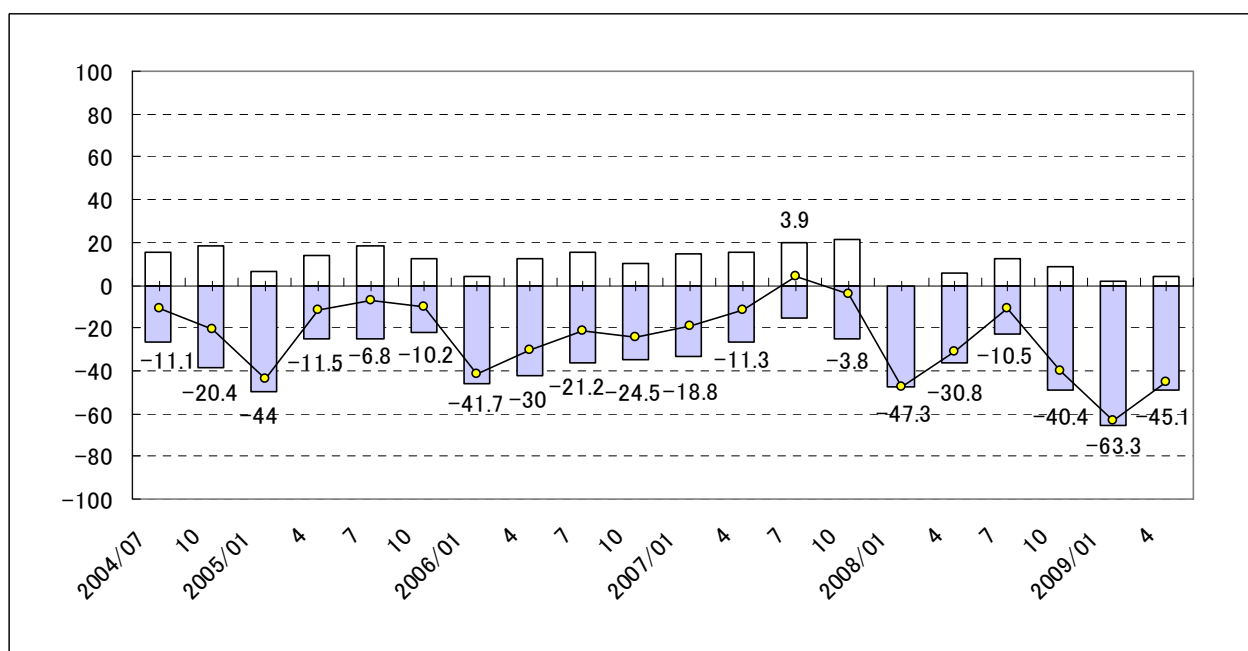
##### ●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



##### ●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー12



## 5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、資金繰り、単価引下げをあげる企業が多く、②商業は売上減少、単価引下げ、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、人件費、資金繰りをあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	154	118	7	10	19
単価引下げ	59	43	6	3	7
競争激化	44	23	6	9	6
資金繰り	76	59	4	2	11
人件費	49	32	2	3	12
労働力確保	5	3	0	0	2

## 6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【3月】	諏訪公共職業安定所	0.51倍	△0.78ポイント
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	9,105枚	△1,599枚
	金額	13,843百万円	△1,978百万円
	うち不渡り発生状況	枚数	+10枚
	金額	7,503千円	+7,503千円
電力使用量【4月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	61,432 MWh	+7.0%
	高压電力計	91,158 MWh	△17.7%
	合計	152,590 MWh	△9.3%
車庫証明取扱件数【4月】(諏訪地方合計)		868件	△19.9%
新設住宅着工件数【H20.4~H21.3】(諏訪内)		1,482件	△2.6%

## 7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成21年4月末
- 調査内容 「平成21年4月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査（回答数 下記7）及びヒアリング調査（約120社）
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積501㎡以上）、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 193企業
- 回答率 64.3%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	225	23	22	30	300
回答数	142	12	15	24	193